

グループのESGマネジメント

サステナビリティに関する考え方

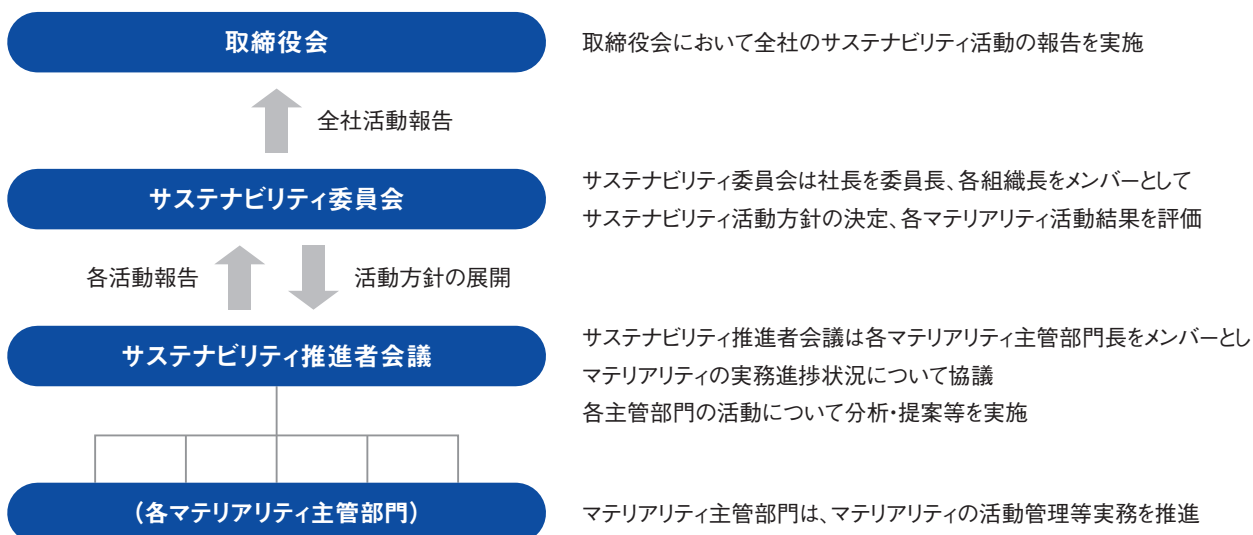
EKKグループは、かねてより「企業は株主、従業員および社会の三者の共有物である」という考え方を経営の端々に展開しています。現在の事業環境は、気候変動問題をはじめ持続可能な社会への取り組みが急務となっていることを踏まえ、2021年4月より「サステナビリティ委員会」を設置し、活動を推進しています。

「サステナビリティ委員会」では、サステナビリティ関連の指針やESG Rating等を参考とし、EKKとしてのESG重要課題（マテリアリティ）を協議・決定し、経済性原則のみでなく、環境に配慮した製造工程の整備など、社会性原則も考慮した企業活動を進めていきます。

そして、「環境・省エネ」をキーワードとした環境貢献型製品の開発も加速し本業の成長により、結果としてSDGsの達成にも貢献していきます。

サステナビリティ活動への取り組み

サステナビリティ委員会の体制・活動



EKKグループのESG重要課題（マテリアリティ）

法令・規則	E ●環境マネジメント
ESG Rating	S ●人間尊重に基づく人事施策、品質の確保 ●社会貢献活動、労働安全衛生、サプライチェーンマネジメント
ステークホルダーの要請	G ●コーポレートガバナンス、リスクマネジメント ●情報セキュリティ

各マテリアリティの取り組みと事業の成長によりSDGsの達成に貢献



EKKグループの事業環境をめぐる状況

EKKグループは5つの事業セグメントにて、陸・海・空の各モビリティおよび各プラント機器、半導体製造装置にメカニカルシール、各種機器製品を提供しています。

このように全産業にメカニカルシール類を提供しているのは世界で当社のみです。また、当社の表面テクスチャリング技術をはじめとした、独自技術を活かした次世代モビリティ・次世代エネルギー市場に向けた新商品開発と拡販を進めています。

次世代モビリティ分野は電気自動車のみならず、建設機械、船舶、航空機も電動化が検討されており、今後はさらにそこに焦点を定めた開発・拡販に注力していきます。

また、エネルギー市場は当面は石油需要も増加見通しですが、再生エネルギー市場も拡大していますので、それぞれ当社製品の拡販を続けていきます。

そしてこれらの市場拡大に合わせ、IoT/DXの進展により半導体市場も伸びていきますので次の成長ドライバーとして注力していきます。

研究開発活動 | 環境・省エネに資する新商品開発

当社グループの主力製品であるメカニカルシールは、回転機械からの漏えいを防ぐ機能から、それ自体が環境保全に貢献している製品です。

これらの機能向上が設置機械の性能向上・省力化に通じることと、さらに次世代自動車・次世代エネルギー市場の拡大に応じて当社グループの技術の提案と新商品開発を進めています。今やグローバルで対処すべき気候変動対策として進められているカーボンニュートラルの実現に向けても当社の製品・技術のニーズはますます高まっています。

■ 当事業環境をめぐる状況 | 中長期的な研究開発の動向

2050年のカーボンニュートラル実現に向け 次世代自動車・次世代エネルギー市場拡大が本格化



EKK環境貢献型製品の開発を今まで以上に加速

EKKグループの研究開発活動は、主に、トライボロジー・材料技術・流体力学をベースとして、各種解析技術を駆使してシール技術に必要な専門分野に特化した研究開発活動を行っています。

特に、近年の環境負荷低減が求められる社会的背景を踏まえ、各分野に対して最適な低摩擦技術の開発に重点を置いています。

■ 当社グループの研究開発費・スタッフの状況

2022年度の研究開発費	3,284百万円
研究開発に携わるスタッフ	190名 (総従業員数の3.0%)

事業セグメント別の研究開発状況

セグメント	主な研究開発トピックス	研究開発費 (百万円)
自動車・ 建設機械 業界向け事業	- 自動車業界のEVシフトへの対応として、中国・欧州に設立したR&Dセンターと日本の三極が連携して技術情報を把握し、EV関連製品の開発・拡販を継続 - メカニカルシール：EV駆動モータ軸水冷高速メカニカルシールを開発・量産を開始、電動ウォーターポンプ用小径リップシールの開発 - メカトロニクス製品・金属ペローズ応用製品：次世代自動車用として、FCV車用水素圧力制御弁、水素逆止弁の量産化検討およびサーマルマネジメントシステム製品の開発を継続 - 建設機械向け製品：建設機械の燃費低減を実現する「油圧ハイブリッドシステム」の開発	2,133
一般産業機械 業界向け事業	- 工業用メカニカルシール：高圧・高速条件で使用する機器向けには、表面テクスチャリング技術により摩擦力和発熱を大幅に低減させ、長寿命化を図ったメカニカルシールを積極的に展開 - ダイヤフラムカップリング：発電所向け用途の大型カップリングの製品開発を継続	911
半導体 業界向け事業	- 磁性流体真空シール：金属ペローズシール、ロータリージョイントを組み合わせたハイブリッドシールやモーター一体型などの開発 - 金属ペローズ：半導体製造装置向け長寿命タイプの開発	109
船用 業界向け事業	- 油潤滑船尾管シール：生分解性油をはじめ様々な油種に適合するシール材の量産継続 - 水潤滑環境下でも信頼性を向上させた大型船用の船尾管シールシステムの開発に加え、電動推進システムへの対応や小型船への環境貢献型船尾管システムの開発を継続	32
航空宇宙 業界向け事業	- 航空機向け製品：エンジンギアボックス用に表面テクスチャリング技術を応用した低トルクシールを開発中 - 宇宙ロケット向け製品：新型基幹ロケットH3ロケットのターボポンプ・高圧配管、燃料タンク用のシール開発にも継続して参画中	97

グループのESGマネジメント

社会課題の解決に向けた重点テーマと具体的な施策

	2023年度:重要課題(マテリアリティ)	各施策テーマ	SDGsとの関連付け
E	環境マネジメント 環境方針に基づいた環境マネジメント体制、環境保全活動に取り組んでおります。	・環境貢献型製品の開発 ・気候変動対策 ・資源有効活用および環境負荷物質管理 ・水資源の保全 ・生物多様性の保全	       
	品質の確保 製品の品質問題は、ステークホルダーの信頼の失墜、さらには会社の存亡に関わる問題と捉え、「顧客から信頼される製品品質の確保」、「世界同一品質の確保」に向けて品質の飽くなき改善・向上に取り組んでおります。	・永遠のゼロ (顧客から信頼される製品品質の確保、世界同一品質の確保)	    
S	人間尊重に基づく人事施策 経営理念である「愛情と信頼に基づく人間尊重経営」実践のため、従業員一人ひとりがその能力を出し切ることができる、働きがいのある職場づくりに努めています。新人からマネジメント層までの各教育プログラムを設け、人財教育に注力しています。また、ダイバーシティ・女性活躍社会の実現、働き方改革の推進に向け各指標・目標を定めて取り組んでおります。	・人権尊重 ・ダイバーシティ・女性活躍社会の実現 ・働き方改革の推進 ・人財教育・人財育成	   
	社会貢献活動 当社グループ各拠点の地域から信頼される企業市民を目指し、様々な社会貢献活動を継続的に実施しています。各拠点の地域イベントへの参画や、会社主催イベントへ地域住民の方々を招待しています。NPO法人や学術団体への活動支援、地域スポーツチームへの協賛も積極的に展開しております。	・地域社会貢献活動の推進	     
	労働安全衛生 「安全は人間尊重経営の礎 私たちの願い、私の使命」を基本理念とし、従業員の安全・健康を第一とした安全な職場環境づくりを進めています。また、労働安全衛生システムISO45001の考え方に基づいた労働安全衛生活動を推進しております。	・労働安全衛生 ・従業員の健康 ・交通安全管理の推進	 
	サプライチェーンマネジメント 当社グループの多岐にわたる製品の製造責任と各要求に応えることができるように、製品材料、金属部品、樹脂部品等のメーカーや、各種の加工・表面処理・組み立て等の委託先など、パートナー企業との取引について各方針を定め、公平・公正な調達活動を進めております。	・調達方針に基づく調達活動推進 ・パートナー企業の管理 ・グリーン調達活動推進	   
G	コーポレートガバナンス コーポレートガバナンス・コードに基づいた組織統治と適切な情報開示、また公正な競争・事業遂行のための取り組みを行っております。各事業活動に応じた法令順守を図るためコンプライアンス教育と各部門において個別法令の管理を進めております。	・組織統治と適切な情報開示 ・公正な競争・事業遂行のための取り組み	
	リスクマネジメント 企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業としてのリスク管理の重要性が増していることから、サステナビリティ委員会傘下にリスクマネジメント分科会を設置し有事の備えに努めています。また、グローバル各拠点のインテナルオーディット機能の組織化を進め、定期的に国内・海外拠点のガバナンス・法令順守状況を確認しております。	・事業活動に潜むリスク抽出および対策、リスク顕在化の未然防止等	
	情報セキュリティ 事業活動におけるDXの進展等を踏まえ、情報セキュリティの重要性が高まっていることから、管理体制の強化、従業員へのセキュリティ意識の向上を目的とした教育、緊急事態発生時の対策、各システムの脆弱性対策に努めております。	・情報セキュリティ管理体制強化 ・情報セキュリティ教育 ・緊急事態発生時の対応手順と対策、脆弱性対策	

EKKグループのステークホルダー

EKKグループはこれまでも「企業は株主、従業員および社会の三者の共有物である」という考え方を経営全体に展開してきました。

これにお客様、サプライヤー、金融機関等を加えたすべてのステークホルダーと対話し、深い信頼関係を築くことが、適正利益の確保につながり、EKKグループの永続的な成長の実現を支えるものと考えています。



お客様

- ニーズにかなった高品質の製品が、合理的なコスト・納期で的確に提供されること
- 納入された製品に関し、維持・修理のアフターケアが適切になされること
- 技術力を持ち、新製品の開発、新分野への展開を支えてくれる信頼できるパートナーであること

株主

- 企業価値が確実に向上していくこと
- 配当と企業体質強化のための内部留保とのバランスを取り、長期的かつ安定した適切な株主還元がなされること

取引先

- 製品・サービスを安定して納め、それに伴う適切な対価が得られること
- 取引を通じ、技術力を高めたり新分野を切り開いたり、あるいは企業としての信頼性の向上が得られること

金融機関

- 信用供与等の金融取引を反復・継続して行い、リスクに見合った適切な収益が得られること
- 取引を通じ、金融取引に応用性を拡大するとともに、企業としての信頼性の向上が得られること

社会

- 健全な企業活動が行われ、安定した納税・雇用機会創出がなされること
- 集団として社会との広範なつながりがはぐくまれ、地域社会の活性化に貢献すること
- 製品の普及を通じ環境保全に資すること

従業員

- 勤労を通じ適切な報酬を得ること
- 生産活動を通じ社会に貢献すること
- 物質的・精神的両面から豊かな生活を追求する糧が得られ、多様な目標が高い次元で達成される場が提供されること